

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

国語(現代文)

試験時間	理 45 分	満点(配点)	150 点	出題数	現代文 1 題			
試験時間	他 105 分	満点(配点)	文 400 点, 教育 600 点, 経済 500 点, 医(医) 150 点	出題数	現代文 1 題 古文 1 題 漢文 1 題			
総 括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総 論〉

本文は「政治」について論じられた評論であるが、語義や政治観の歴史的変遷に言及したものであり、昨年度の本文と難度的には変化がない。本文の分量が4000字程度であり、昨年度よりも1000字程度減少した。設問数には変化はなく6問。設問構成としては、漢字の書き取りと読み、対応箇所の抜き出し、記述説明問題は例年通りであったが、07年度・08年度と続いた空欄補充がなくなった。また、全体の要旨をまとめる設問もなくなった。記述説明問題の字数合計は280字～300字で、昨年より400字強と比べると100字程度減少した。

昨年度は試験時間が伸びた最初の試験で、本文量・解答量ともに増加し、受験生には時間的に負担の多い問題であったが、今年度はかなり易化したといえる。

〈合格への学習対策〉

名大の現代文は本文を正確に読解できれば設問が解けるというオーソドックスな問題である。本文難度も高くなく、センターレベルの評論読解力があれば十分に読みこなすことができる。また、記述説明問題も、読解を前提に、本文中に解答ポイントを発見できれば、抜粋合成で一定レベルの答案を作成することが可能だ。

したがって、まず、評論の読解力をつけることが必要である。一定時間で本文を通読し、本文全体の論理構造を把握し、内容を理解する読解力を養っておこう。記述解答作成については、センター試験の評論の解答を消去法で選ぶのではなく、自力で解答ポイントを発見し、そのポイントを押さえている選択肢を探すというポイント設定法でやっておけば、記述の際も何を書いてよいかわからず困るということはない。

空欄補充、要旨問題は来年度以降出題される可能性があるので、対策をしておこう。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
1	評論	苅部直『移りゆく「教養」』	「政治」という言葉の意味に対する考察を踏まえて、日本人の「政治」像の分裂とその理由、欧米における政治概念の歴史的変化について述べた後で、自身の考える「政治的教養」について語った評論。	標準

■ 2009年度 入試問題分析シート ■

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
日	問一	記述	漢字の書き取りと読み。例年のことだが、読みはカタカナ指定なので、必ずカタカナで書くこと。読みのh「紐帯(チュウタイ)」は難しい。	標準
	問二	記述	内容説明。例が二つあがっているなので、その例の意味とそこから筆者が読み取っている内容をまとめる。第二版と第三版の違いを示した上で、筆者は「だが、むしろこれは、日本人が抱く『政治観』の両極を示している」と見た方がいいだろう。」と述べている。	やや易
	問三	記述	条件付き理由説明。「こうした分裂」の内容を傍線部直前の段落を使って明示した上で、理由を説明する。理由は傍線部の後に述べられている。欧米の政治概念の特徴と日本の特殊事情をまとめればよい。	標準
	問四	記述	同義表現の抜き出し。実際には意味が同じ表現を抜き出すのではなく、対応する表現を抜き出す設問。「まつりごと」は本文では、近代以降の「政治」とは異なる、近代以前の日本的な表現として紹介されているので、この点に注目して、「欧米思想を受容する前」「日本の」をキーワードに確定する。	標準
	問五	記述	指示語の指示内容の指摘。「こうした政治像」は傍線部を含む段落冒頭の「欧米の思想における『政治』像の古典」であり、それは「こうしたもの」であるから、さらにその前の段落を見て、該当箇所を確定する。	やや易
	問六	記述	内容説明問題。筆者の考える「政治」については、本文の最後の二段落で言及されている。字数は十分あるので、過不足なくポイントを拾いだしたい。	標準

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階(難・やや難・標準・やや易・易)で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。